

陸軍部

通牒

副官ヨリ陸軍航空部本部長へ
 本年七月十一日上申ニ係ル首題ノ件甲式
 四型戦闘機ヲ以テ準制式ト制定セラレ候
 條承知相成度候也

七月廿一日

通牒

副官ヨリ教育總監部本部長、參課本部總務部長、
 陸軍兵器本廠長、陸軍造兵廠總務部長、
 近衛第三、第十六、第十八師團、朝鮮軍、
 參謀長へ

陸
軍

別冊説明書、通甲式四型戦闘械ヲ準
 制式トシテ制定セラレ候條承知相成度候
 也

陸軍省

陸軍部

第八六

部

十月廿五日



陸軍省 參第四六二號

七月十日



陸軍省 七月十一日

陸軍省 第二〇三

飛行機假制式審議相成度件上申

大正拾貳年七月拾壹日

陸軍航空部本部長 白川義則

陸軍大臣 山梨半造 殿

陸軍航空部本部長印

甲式四型戦闘機ヲ假制式兵器トシテ採用致度候條
審議相成度説明書并理由書相添へ及上申候也

陸軍

提説

條

6290

説明書并理由書八目下印刷中ニツテ追テ
提出可致候

追テ豫テ上申致置候通機種名稱変更ト同時
ニ本機ヲ二型魁逐機ト改稱セラルルモノニ付
候



議 題 第一

甲式四型戦闘機假制式制定ノ件

第一 構造

大正十二年七月十日
陸軍航空部印刷

一、本機ハ現時佛國陸軍ニ於テ驅逐機トシテ使用セル「ニュー
 ボール」式ニ九〇型單座機ニシテ「イスパノスイザ」三〇〇
 馬力發動機（一基）及牽引式螺旋機ヲ装着ス其一般ノ形狀
 ハ附圖第一乃至第三ノ如ク機体ノ主要ナル構造ハ左ノ
 如シ

(1) 胴体

單胴体ニシテ布張「モノコック」式トス其一般ノ要領ハ附
 圖第四ノ如シ

(四) 翼

上翼及下翼ノ長サ及傾角ハ相等シク上翼ハ二度ノ上
反角ヲ有シ下翼ハ水平ナリ

上下翼ハ左右ニ對ノ合板製支柱ニヨリ保持連結セラ
ル

翼ノ前桁及後桁ハ共ニ中空ノ合板ニシテ麻布ヲ以テ
纏卷シ母骨鋼製管及ピアノ線ニ依リ互ニ連結セラ
ル補助翼ハ下翼後端ニ装着シ互ニ相連繫シテ反對方
向ニ作動ス

(五) 尾部

下方垂直板下ニ上下左右ニ動ク發條尾橈ヲ有ス

昇降舵及方向舵ハ安定板及垂直板ノ後折ニ装着セラレ共ニ胴体ト同シクモノコック式ニシテ離脱容易ナル楔ヲ以テ固定ス昇降舵ニハ礬素製修正板アリテ縱方向ノ調整ヲ便ス

(二) 操縦装置

方向舵ハ水平ニ移動スル踏桿ニ依リ脚ヲ以テ又昇降舵及補助翼ハ操縦桿ニ依リ手ヲ以テ操作ス
方向舵及昇降舵ハ操縦索ニ依リ踏桿又ハ操縦桿ニ連結セラレ補助翼ハ鋼管ノ媒メニ依リ左右相反シテ作動ス

(三) 着陸装置

麻布ヲ纏卷セル二個ノV型合材製脚ヲ有シ車軸ハ緩衝護謨紐ニヨリ脚下端ニ搏着セラル尾舵ハ下方垂直板ノ下部ニ装着シ滑走ニ便ス

(ハ) 給油及冷却装置

揮發油槽ハ主油槽及重力油槽ノ二種ヨリ成リ主油槽ヨリ重力油槽ヲ経テ發動機ニ送油ス主油槽ハ操縦席ノ前方ニ位置シ特種緊定装置ニヨリ飛行間之ヲ脱落スルコトヲ得滑油槽ハ發動機ノ直下ニ固定セラレ又形冷却装置ヲ有ス

發動機冷却装置トシテ二個ノラムブラン式冷却器及

水槽ヲ備フ

第二 性能

本機、一般的性能左ノ如シ

全幅 九米七〇

全長 六米五〇

表面積 二六平方米八八

全高 二米五〇

席数 一

上昇限度 八五〇米

一〇〇米迄 二分三五秒

二〇〇米迄 五分三五秒

三

上昇能力	三〇〇米迄	九分一〇秒
水平速度	四〇〇米迄	一三分三〇秒
航続時間	五〇〇米迄	一九分
自室	二〇〇米ニ於テ	毎時二一五升
有効搭載量	二時間	
全備重量	八〇〇瓩	
搭載油量	一七〇瓩	
安全係数	一・一五〇瓩	
	揮發油	一五四瓩
	滑油	一五瓩
	九	

武裝 機関銃ニ

第三 本機選定ノ理由

一本機ハ大正十一年度ニ於テ若干機併國ヨリ購ヘシ試験
セル結果左ノ特徴アルヲ認ム

- (1) 組立分解該調整他機ニ比シ容易ナリ
- (2) 空中ニ於ケル安定良好ニシテ錐操状態トナル憂殆ト
ナシ
- (3) 地上ニ於ケル操縦ハ他機ト大差ナキモ空中ニ於ケル
操縦ハ甚タ容易ナリ

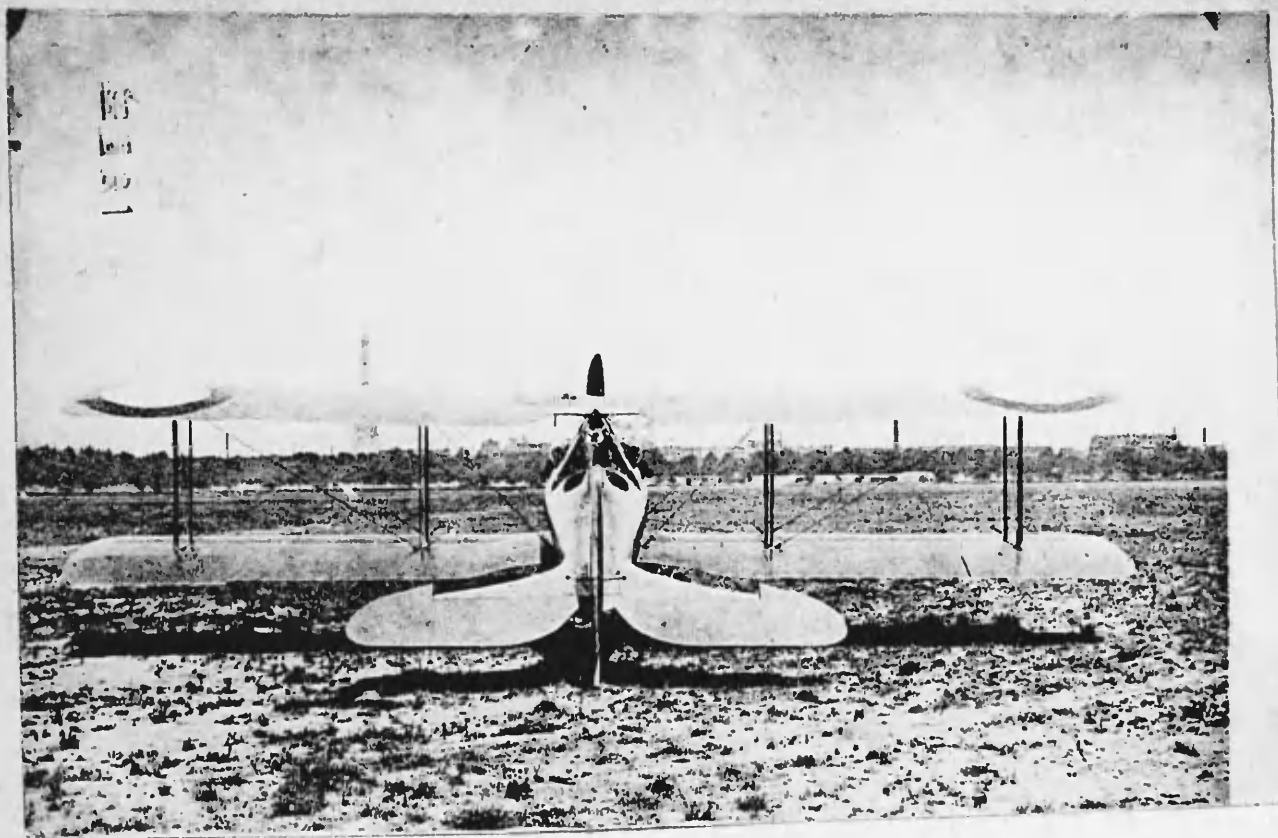
ニ從來使用セル丙式一型戦闘機ハ發動機ノ故障多ク且現

時ノ列強諸國ノ戦闘機ニ比シ其能力劣等ニシテ諸外國
ニ於テモ漸次廢止シツ、アリ

三、本機体及發動機ハ本邦民間工場ニ於テ既ニ製作權ヲ獲
得シ其製作ニ成功シアルヲ以テ將來ニ於ケル補充容易
ナリ

四、本機ニ使用スヘキ車輪ハ現用機ノモノト同一ニシテ從
來最モ困難ヲ感シタリシ補充難ヲ除去スルコトヲ得
之ヲ要スルニ本機ハ將來ノ戦場用機トシテ諸般ノ利點ヲ
具有スルヲ以テ戦闘機トシテ適當ナルモノト認メ選定ス
ル所以ナリ

0633



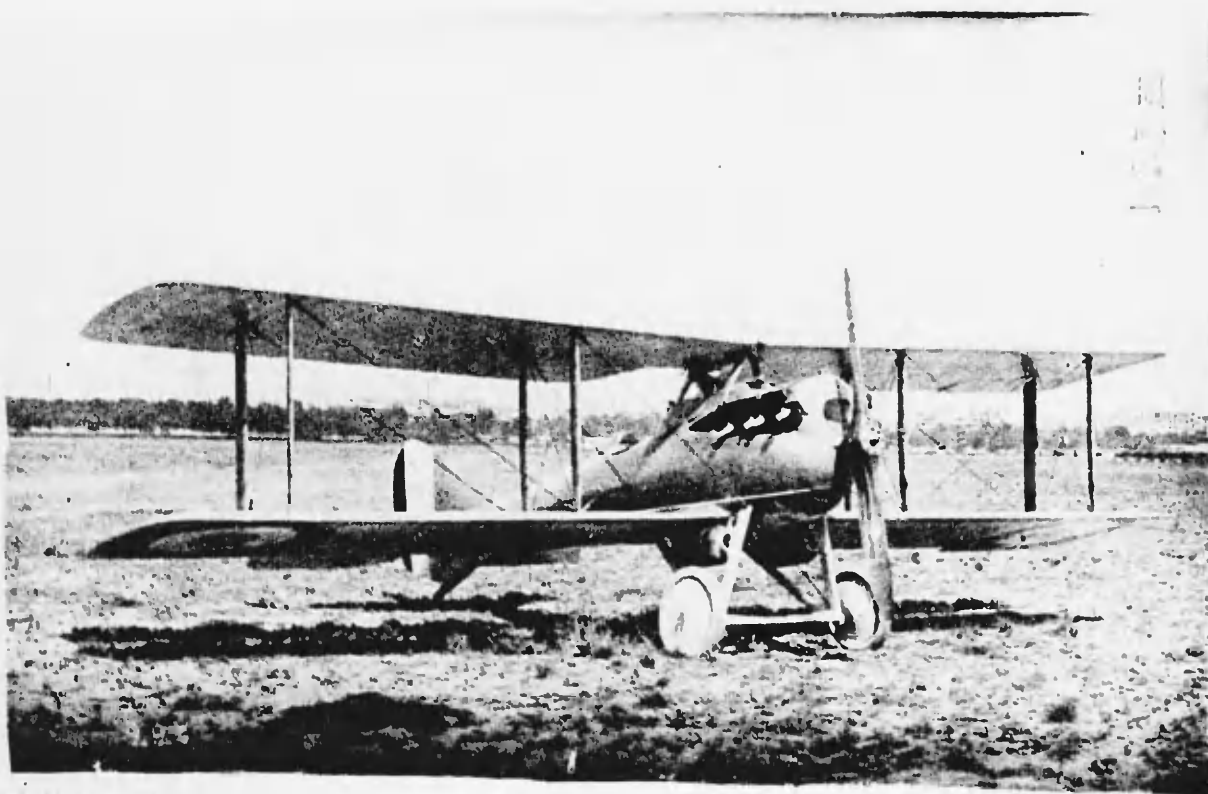
1911

アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp/>

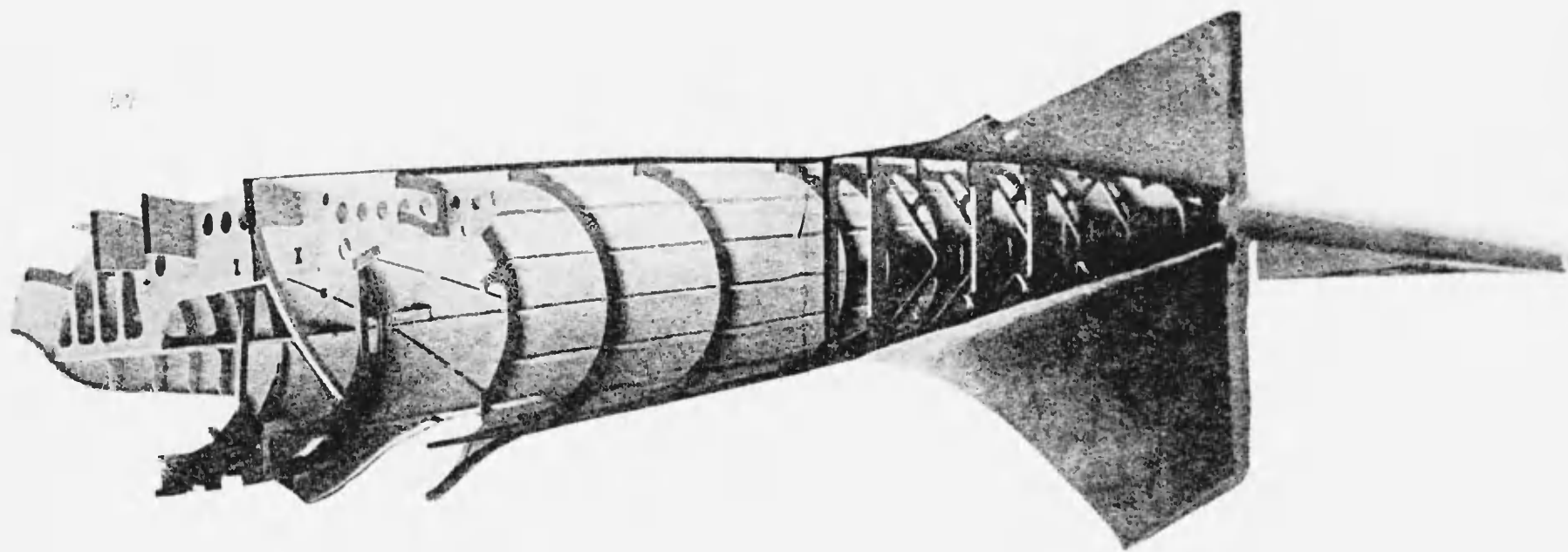
0634



アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp/>



アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp/>



0636

4890

甲式四型戦闘機説明書

大正十二年十一月二日
陸軍省

甲式四型戦闘機説明書

第一構造

本機ハ現時佛國陸軍ニ於テ駆逐機トシテ
 使用セル「エーポール」式ニ凡CI型單座機ニシ
 テ「イスパノス」イザ「三」ロ馬力發動機（二
 基）及牽引式螺旋機ヲ装着ス其一般ノ形狀
 ハ附圖第一乃至第三ノ如ク機体ノ主要ナ
 ル構造ハ左ノ如シ
 (イ) 胴体
 單胴体ニシテ布張「モ」ノ「コ」ク式トス其
 般ノ要領ハ附圖第四ノ如シ
 (ロ) 翼
 上翼及下翼ノ長サ及傾角ハ相等シク上

(ハ)

翼ハ二度、上反角ヲ有シ下翼ハ水平ナリ
 上翼ハ二度、上反角ヲ有シ下翼ハ水平ナリ
 保持連結セラルル
 翼、前桁及後桁ハ共ニ中空ノ台板ニシ
 テ麻布ヲ以テ纏卷シ母骨鋼製管及ヒア
 リ線ニ依リ互ニ連結セラル補助翼ハ下
 翼後端ニ装着一シ互ニ相連繫シテ反對方
 向ニ動作ス
 尾部直板下ニ上下左右ニ動ク幾條尾
 下方向直板下ニ上下左右ニ動ク幾條尾
 機ヲ有ス
 昇降舵及方向舵ハ安定板及垂直板ノ後
 桁ニ装着セラル共ニ胴体ト同シクモ、後

(ホ)

(二)

ヲ、ク式ニシテ離脱容易ナル楔ヲ以テ固
 定ス昇降舵ニハ礮素製修正板アリテ縦
 方向ノ調整ヲ便ス
 操縦装置
 方方向舵ハ水平ニ移動スル踏桿ニ依リ脚
 リ以テ又昇降舵及補助翼ハ操縦桿ニ依
 リ手ヲ以テ操作ス
 方方向舵及昇降舵ハ操縦索ニ依リ踏桿又
 ハ操縦桿ニ連結セラル補助翼ハ銅管ノ
 媒介ニ依リ左右相反ニ作動ス
 着陸装置
 麻布ヲ纏卷セル二個ノV型台材製脚ヲ
 有シ車軸ハ緩衝護紐ニヨリ脚下端ニ

(ハ)
 持着セラル
 尾機ハ下方垂直板、下部ニ装着シ滑走
 = 便ス
 給油及冷却装置
 揮發油槽ハ主油槽及重力油槽、二種ヨ
 リ成リ主油槽ヨリ重力油槽ヲ經テ發動
 機ニ送油ス
 主油槽ハ操縦席ノ前方ニ位置シ特種緊
 定装置ニヨリ飛行間途ヲ脱落スルコト
 ヲ得
 滑油槽ハ發動機ノ直下ニ固定セラレ又
 形冷却装置ヲ有ス
 發動機冷却装置トシテ二個ノ引ムアラ

上昇限度

席 藝

全
高

表面積

全長

全幅

本機一設

レ式冷却器及水槽ヲ備フ

藥工性能
左性能
如左

知
二

知
二

九米七

六米五

二六六八八

六

一六五

八五〇〇米

一
二
三
四
五
六
七

米迄

—

—

—

三
●
●
●
米
迄

三

三

三

一、二、三、四、五、六、七、八、九、十

二分三秒

五分三五秒

九分一厘

一
三
分
三
秒

水手速力
航續時間
自重
有効格載量
全備重量
搭載油量
安全係數
武裝

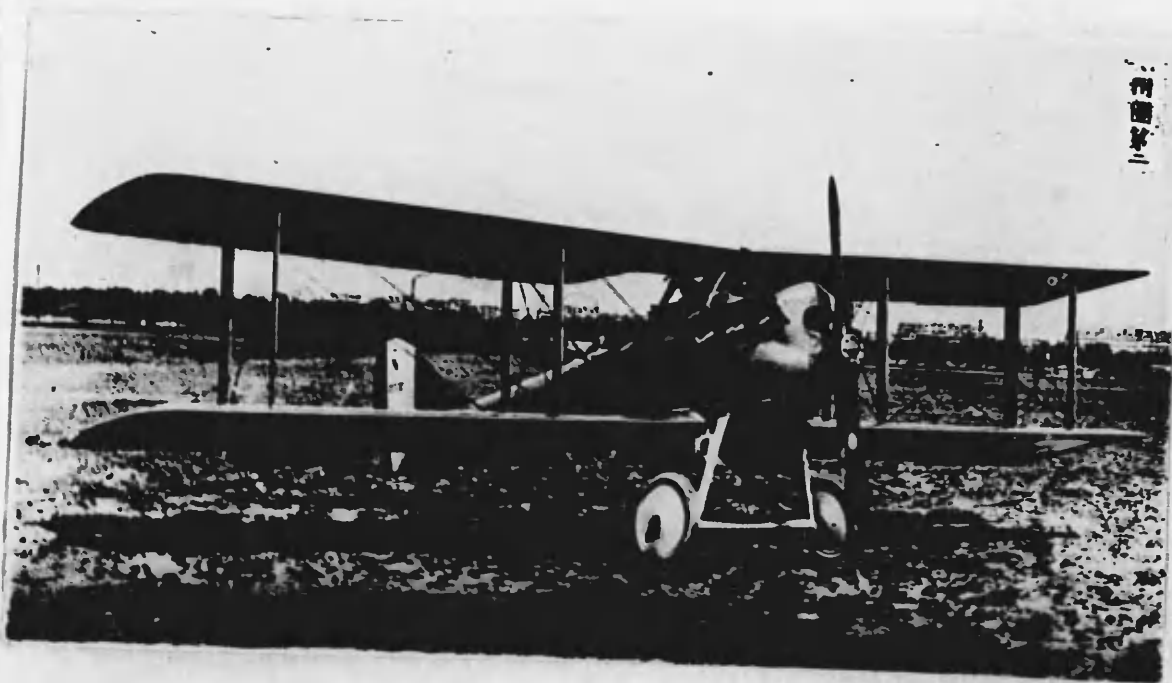
機関銃	二	元	滑	揮	一	一	八	二	二	五
			油	油	一	七	▽	時	▽	▽
					五	▽	▽	間	▽	▽
					▽	厩	厩		▽	▽
					厩				米	米
									二	迄
									於	迄
									テ	迄
									毎	一九分
									時	
									二	
									五	
									料	

0644

四國第一



四國第二



0645





0646

0646